

中間提言

## 環境未来都市 福岡アイランドシティ（略 FIC）

### —自然と共生できる文化エコタウン—

アイランドタワー自治会

#### 「国内外へメッセージ発信」

理想的な街は職場、住い、行政商業施設のサイクルができていること。でも、ここにきて、震災の影響で、自然との共生、絆、エコなど生活価値感が激変しています。求められているのは、あくなき日本文化の良さの追求でしょう

もったいない提唱の故マータイ女史、12歳の時の伝説のスピーチセバスチャンズキ、彼女の演説に感動し地球温暖化提唱者ゴア元米国大統領、自然エネルギー提唱のスウェーデン前エネルギー庁長官トーマス・コバリエ氏らをゲストに質の高い環境未来都市 福岡アイランドシティ（FIC）を発信しましょう

#### 「夢プロジェクトの取り組み」

##### （プロジェクト準備）

##### 1. 企画段階から FIC 住民が参加で事業展開

- ・事務局は市で、委員会組織を継続し、地元体制確立段階で、仮称まちかど協議会へ移管
- ・FICの心臓部として、ふるさと防犯防災本部兼ねた会館の設置（消防、警察施設、郵便局、市役所出張所など入居）、まちのマネジメント機能（NPO発足）も併設
- ・FIC住民要望の高い、日常欠かせない洒落たスーパー店併設フィットネスクラブ・レストラン街・喫茶店・銀行などの早期実現
- ・将来2校区計画だが、2校区を1校区にまとめることはFIC住民や市にとってもメリット大である（諸課題や夏祭り・ツールドフクオカ・文化祭はスケールメリットがあり、将来は港エリア企業祭り、海上祭りイベントなど楽しい企画がスムーズに流れる効果は大）
- ・バランス良い年齢構成のまちづくりに着手

##### （自然との共生プロジェクト）

##### 2. 野鳥公園の早期開園

- ・渡り鳥の飛来する風土は自然が豊かで都市と自然の共生を象徴する。自然遺産として観光スポットになる。
- ・デザイン性に優れた児童会館・図書館、野外音楽堂、イベントが可能な

仮施設（例えばシルクドソレイユサーカス）の併設は望まれる

3. 100m 幅のグリーンベルトの両側を桜並木にする
    - ・現在は緑樹が多いが彩りの樹と花がまだ少ない。花博を彷彿とさせる四季の彩りを配置し、桜並木と併せて観光資源として発信する
    - ・幹線道路をクスノキなどで木陰づくりに着手
  4. 周遊海域<エコパーク・ゾーン>の拡充
    - ・海上遊歩道の完成によって日本初のユニークな散歩道が誕生する。これを核に広域な健康・観光ゾーンの開発
  5. FIC 島の駅
    - ・新設の青果市場と志賀島漁港の素材提供に伴う、レストランの発信
  6. カーシェアリングで EV 普及
    - ・建物条件駐車場 200%確保で、2000 台の駐車場（就業人口の 10%）
    - ・島内カーシェアリングで EV の発信と普及を図る
    - ・自転車道の確立と 2000 台の収容の駐輪場（来場車用として）
  7. 交通機関の取り組み
    - ・大量輸送機関として地下鉄の延伸
    - ・海に囲まれた地形を活用して、海上バス（シーバス）やボートエリアづくりの取り組み
    - ・島内移動手段は動く歩道と自転車の併用
- (教育・健康・国際・エコ複合プロジェクト)**
8. 教育機関、予防医学施設の誘致
    - ・小中一貫教育からさらなる教育環境の充実を図るために高校の県内外からの移管か、国際からの誘致を図る。大学も国内外から誘致を図る
    - ・体育及び健康をベースにしたスポーツ予防医学施設の誘致
  9. センター部の核になる施設
    - ・県内にあるハビタット国連機関に続く、国際医療福祉機関、アジア太平洋観光交流機関等の誘致
    - ・戦争による紛争解決から、和を尊ぶ日本の気質を前面に出した国際調停機関の誘致やあるいは 20 年以上の実績を持つ子ども会議の新機関設立
    - ・震災による中央政府分散の受け皿として、FIC の売り込み活動
  10. ホテル誘致
    - ・上記機関誘致や子ども病院開設に伴い、夕陽のスポットである FIC に国内的にも国際的にも有名なホテル誘致
  11. スマートタウンの実現
    - ・主体的な企業の選別と効率的効果的な企業チーム編成で推進
    - ・省エネ・創エネなどの先端技術イベントで常に情報発信